

未来をつくる先輩の声

これからのエネルギー開発に挑む先輩たちの思いを聞いてみました！



Y.YAMANE
徳山事業所 管理課
2004年入社

Q どんな仕事をしていますか？

石炭のかわりになるアンモニアや、廃油を原料にSAFをつくる準備を進めています。また、徳山事業所を含む周南コンビナートの脱炭素化について、近隣企業のみなさんと検討中です。

Q カーボンニュートラルに取り組もうと思ったきっかけは？

もともとは化学製品を扱う部署にいましたが、新しいことに挑戦したいと思い、手を挙げました。

Q 今の仕事のやりがいは？

私たちが取り組んでいるのは、カーボンニュートラルという明確な答えがない新しい課題です。しかも、ひとつの企業だけでは到底達成できない。そんな課題に、みんなの力を合わせて挑戦していくことにやりがいを感じます。

Q どんな未来をつくりたい？

とにかく子どもたちが幸せに暮らせる世の中にしたいです。すでに今、夏は暑くて外で遊ぶのもままならない。とても難しいですが、気温を1度でも2度でも下げたいと思っています。異常気象が進んだ未来で過ごしてほしくないんです。



T.ENDO
北海道製油所 管理課
2003年入社

Q どんな仕事をしていますか？

北海道製油所のカーボンニュートラル達成のため、CO₂を地中に埋めたり活用したりするCCUSの検討を行っています。以前は北海道庁に Outreach、道内全体のCO₂削減に取り組んでいました。

Q カーボンニュートラルに取り組もうと思ったきっかけは？

カーボンニュートラルへの変革は、私の専門である電気の領域から起こると思ったのがきっかけですね。自分の専門分野を、人にやられるくらいなら自分でやりたいなど(笑)

Q 今の仕事のやりがいは？

何をするにも前例がなく、壁にぶち当たるたび、やり方から模索するのがとにかく大変です。でも、それが次世代の人たちのためになる。CCUSは、雇用を生み、地域の活性化や人口減少対策にもつながりうる。取り組む意義がある仕事です。

Q どんな未来をつくりたい？

今よりも気温が上がると、日本でも海に沈む街がでてくるかもしれない。それは絶対に阻止したい。地球温暖化を食い止めながら、便利な生活を維持できる未来をつくりたいです。社会や国のために何ができるか、常に考えています。

出光が挑む、
カーボンニュートラルのこれから。

Future Energy

出光興産株式会社

〒100-8321 東京都千代田区大手町一丁目2番1号
Otemachi One タワー



公式HP



採用HP

未来の暮らしを守るために、未来のエネルギーをつくる。

出光が進める 未来へのチャレンジ

いま出光は、新しいチャレンジをはじめています。

カーボンニュートラル。それは、私たちが供給するエネルギーのCO₂の排出量を、実質ゼロにするための取り組みです。

国内4つの製造拠点において、地域の特色を活かしながら、多様な施策を検討しています。

出光には、人々の暮らしを支えてきた実績があります。

技術がある。知見がある。設備がある。だからこそ、私たちがやらなければ。

世界が求める未来を実装するために、今日も本気で取り組んでいます。

アンモニア

徳山
事業所

アンモニアは燃焼時にCO₂を出さないため、石炭や重油の代替エネルギー候補として注目が集まっている物質です。出光は、徳山事業所を中心にアンモニア燃料による発電体制を整え、地域コンビナートの電力需要をまかなおうとしています。

SAF (持続可能な航空燃料)

※SAF= Sustainable Aviation Fuel

千葉
事業所

徳山
事業所

再生可能な資源からつくられる航空機用燃料で、従来の化石燃料と比べて、ライフサイクル全体でCO₂の排出量を大幅に削減できます。出光では、ATJ (Alcohol to Jet: サトウキビなどからつくられるエタノールが原料) とHEFA (Hydroprocessed Esters and Fatty Acids: 揚げ物油などの廃油が原料) の2種類の製造を検討しています。

合成燃料

北海道
製油所

再生可能エネルギー由来の水素とCO₂で合成してつくられる液体燃料のこと。製品ライフサイクルにおいてCO₂排出量ゼロと見なされ、かつ、従来のガソリンなどの燃料と同じ性状であるため、既存インフラをそのまま使える点が大きなメリットです。

CCUS (CO₂の回収・活用・貯蔵)

※CCUS=Carbon dioxide Capture, Utilization, and Storage

北海道
製油所

CO₂を回収し、貯蔵するプロジェクトを自治体や他社と共同で推進中。北海道製油所のある苫小牧市では、海底にCO₂を埋める計画も。回収したCO₂は、合成燃料として活用できるよう開発を進めています。

固体電解質

千葉
事業所

固体電解質とは、次世代リチウムイオン電池として注目される「全固体電池」の材料。出光は、その材料開発と量産技術開発に取り組んでいます。中間原料である「硫化リチウム」は、石油精製の過程で副次的に得られる成分を利用しており、出光は長年にわたり、有益な活用方法についての研究を行ってきました。

プラスチックリサイクル

千葉
事業所

回収した使用済みプラスチックを原油に近い状態まで分解・油化などをして、もう一度新たなプラスチック製品へと生まれ変わらせる事業です。出光は2023年に、他社と合弁会社「ケミカルリサイクル・ジャパン」を設立しています。